

## CISPR/F/WG1 ミュンヘン会議より

CISPR/F/WG1が2020年2月11日～13日にドイツのミュンヘンにあるBSH本部（ボッシュとシーメンスが合併した会社）の会議室において開催されました。COVID-19の感染拡大と荒天の影響のため、中国・韓国・イタリアのメンバーが参加できず、世界の5カ国から9名の参加となりました。今回は、当該会議における決定事項をご報告致します。

### 【WGでの主な改正事項】

#### （1）CISPR14-1

##### ●IPT機器の適用範囲への導入について

IPT (Inductive Power Transferの略) 機器とは、電磁誘導の技術を利用したワイヤレス給電のことで、代表的なものとしては、スマートフォンの充電器があります。CISPR14-1の対象範囲の家電・電動工具でワイヤレス給電・充電を利用するものは、今のところ、シェーバー・歯ブラシ・工具のバッテリーのワイヤレス充電などで実用化されている程度ですが、今後は調理器具にも拡大すると見込まれています。

##### ●測定周波数の6GHzまでの拡大について

クロック周波数が108MHzを超える周波数を利用している製品は、使用している周波数に応じて最大6GHzまで測定が要求されます。

##### ●統計的評価手法の規定について

審議の結果、情動的付則に変更されます。

また、無線通信機能を持つ機器も適用範囲に追加されます。（ただし、無線通信のための意図的放射及びそのスプリアスは対象外）



【BSH本部の会場入口写真】

#### （2）CISPR14-2

##### ●放射イミュニティ試験の周波数範囲6GHzまでの拡大について

クロック周波数が200MHzを超える周波数を利用している製品に対して、6GHzまでの放射イミュニティ試験を適用することになります。

##### ●Wired network port z に対する試験追加について

これまで明記されていなかったWired network portに対する試験を追加し、電話線のような建物の外まで繋がるケーブルに対してサージ試験を新たに要求することになります。

##### ●無線通信機能を持つ機器について

無線通信機能を持つ機器も適用範囲に追加されました。ただし、無線通信機能は対象外であることが明記されます。

##### ●統計的評価手法について

統計的評価手法が削除されます。

#### 【今後の予定】

CISPR14-1とCISPR14-2のFDIS案のレビューが完了し、FDISが6月頃に発行される予定です。また、今年中にはCISPR14-1 第7版とCISPR14-2 第3版が発行される予定です。

次回のCISPR/F関連の国際会議は、2020年11月16～20日にスウェーデンのキスタでの開催が予定されています。



【WGメンバーとの会食の様子】

#### 【お問い合わせ先】

(一財) 電気安全環境研究所

EMC試験センター

E-mail: jet-emc@jet.or.jp